

学校名：<sup>うたづちようりつうたづちゆうがっこう</sup>宇多津町立宇多津中学校

校長名：福崎彰彦

所在地：香川県綾歌郡宇多津町3302番地

電話番号：0877-49-0818

## I 研究実践校の概要

### 1 学校・地域の特色及び実態

宇多津町は、香川県のほぼ中央にあり、北は瀬戸内海に面し、東は坂出市、西は丸亀市に隣接している。本町の武道の歴史は古く、柔道や剣道が盛んで、戦後、県下では、いち早く武道を復興させた町である。現在も、柔道や剣道の指導者が多く在住し、町内の小学生や中学生を指導している。

### 2 学校の概要

(1) 学級数、生徒数（平成22年5月1日現在）

		1年	2年	3年	特別支援	計
学級数		5	5	5	3	18
生徒数	男	83	85	75	4	247
	女	91	73	79	6	249

教員数 37名（保健体育科3名）

(2) 武道の授業の状況

学習内容： 剣道

		1年	2年	3年	計
配当時間		7	7	0	14
保健体育時間		90	90	90	270
配当教員数		2	2	0	4
外部指導者		0	1	0	1
生徒数	男	83	85	0	170
	女	91	73	0	169

## II 研究の内容及び成果

### 【本事業の成果の要点】

本事業の成果として、以下の4点が挙げられる。

- (1) 保健体育の年間指導計画に剣道を位置付けることができ、剣道の単元計画を作成することができた。
- (2) 外部指導者との連携により、生徒は熱心に学習に取り組むことができた。また、本校体育科教員の剣道学習における指導力の向上につながった。
- (3) 剣道用具を整備することで生徒の意欲が高まり、充実した学習が進められ、剣道の特性に触れさせることにつながった。
- (4) 研究授業で本校の取り組みについて伝えることで、剣道学習の一つのモデルを提示することができた。

### 1 研究テーマ等

(1) 研究テーマ

地域の武道指導者と体育担当教員との連携の在り方

(2) 研究テーマ設定の理由

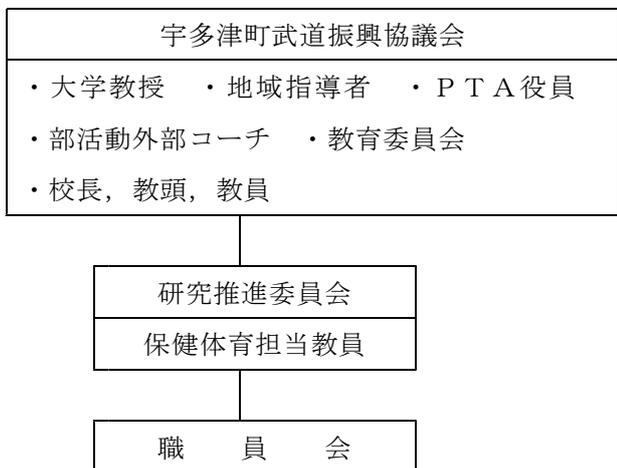
学習指導要領の改訂により、中学校において平成24年度より武道が必修となる。そこで、保健体育の授業に武道を取り入れるにあたり、校区内に在住する地域の剣道スポーツ少年団を指導する剣道指導者と連携し、地域の教育力として、学校体育における剣道指導に活用できないかと考え、取組を始めた。

武道には伝統的な考え方や基本動作など他の運動と比べて特有の特性がある。そこで外部指導者とのチームティーチングを行い、個に応じたきめ細かな指導を実践することによって、剣道の魅力を生徒たちに伝えることができると考えた。さらに、これを機会に、技術指導をお願いしながら、生徒が外部指導者と接することでその生き方に触れ、生涯体

育への意欲を高めることにつながるのではないかと考えた。

そこで、剣道の伝統文化を理解しながら、相手を尊重して稽古ができるようにするために、外部指導者との連携の方法や連携による授業の在り方を研究のテーマとした。

(3) 取組体制



(4) 本事業における主な取組

平成22年度	授 業 実 践	○平成22年9月下旬～10月中旬 第1, 2学年男子剣道学習実施  ○平成22年10月中旬～11月下旬 第1, 2学年女子剣道学習実施
	講 習 会	○平成22年12月 第1回武道指導者講習会参加 (高松市立鬼無小学校)
	武 道 協 議 会	○平成22年9月 第1回宇多津町武道振興協議会 ・本年度の事業計画について  ○平成23年2月 第2回宇多津町武道振興協議会 ・本年度の活動のまとめ ・成果と今後の課題

2 研究内容及び具体的な研究活動

(1) 具体的な研究課題

- ① 武道の必修化に向けた基本的な剣道の授業づくりの在り方。
- ② 外部指導者の活用方法

(2) 取組について

① 基本的な剣道の授業づくり

ア 興味・関心をもたせる環境づくり

- ・ 本校には、宇多津町の武道館が併設しており、剣道場を使っての授業が可能である。伝統文化である剣道の歴史や礼を重んじる特色を、生徒たちに正式な武道場で体験させることにより、効果的に理解させることができた。
- ・ 武道館の館内に剣道資料を掲示し、授業の際には指導者が毎時間、剣道着・袴を着用して授業を行ったり、居合刀を持参したりして、剣道学習の雰囲気づくりを大切にして授業に取り組むことができた。
- ・ 剣道具はもちろんのこと、男女別に剣道着・袴を用意して、剣道着・袴を正しく着用して授業に取り組ませた。服装などの形を整えることで生徒が真剣に、また興味や関心をもって学習に取り組めるように工夫した。

イ 教員の指導力向上について

- ・ 体育担当教員が剣道に対する理解を深め、体育の授業における剣道の指導について考えるために、外部指導者の大学教授が実施した小・中学校の剣道学習の研究発表会を参観した。
- ・ 研究発表会を通して、剣道の授業において学習させる内容は以下の点であった。

- a 礼法や作法（基本的な所作）
- b 構えや足のさばき方、竹刀の持ち方や振り方など（基本動作）
- c 剣道着や袴・剣道具のつけ方・しまい方（着装に関すること）
- d 面・小手・胴打ち（技の習得）
- e 五角稽古や試合稽古（稽古に関すること）

限られた授業時間数の中で、何をど

のように教えていくか、指導内容をどのように精選していくかということを考える上で、よいモデル授業となり、本校の剣道の授業づくりに大変参考になった。

ウ 剣道の単元計画

- 平成24年度より、体育分野において、武道は第1・2学年男女で必修になる。本校では、20年度から第1・2学年男女

に剣道を履修させている。実施時期については、1学期には体育祭を行っていることもあり、落ち着いて学習できる2学期に実施した。

- 学習内容については、21年度より全日本剣道連盟制定の「木刀による剣道基本技稽古法」を学習させた。

「剣道授業の単元計画」

平成22年度 地域武道連携事業 1年男女剣道授業実施計画							
○学校準備物 竹刀 剣道着 袴							
○生徒準備物 授業用体操服 突技教科書 筆記用具							
段	はじめ		なか				まとめ
時間	1	2	3	4	5	6	7
0	集合・挨拶	集合・挨拶	集合・挨拶	集合・挨拶	集合・挨拶	集合・挨拶	集合・挨拶
5	1オリエンテーション VTR視聴 ①剣道の試合 ②基本技稽古	1 剣道着・袴を着装する。	1 剣道着・袴を着装する。	1 剣道着・袴を着装する。	1 剣道着・袴を着装する。	1 剣道着・袴を着装する。	1 剣道着・袴を着装する。
10			2 準備運動・素振り	2 準備運動・素振り	2 準備運動・素振り	2 準備運動・素振り	2 準備運動・素振り
15	2 剣道着・袴の着装法 ・剣道着の着方 ・袴のはき方	3 礼法 ・立礼・座礼	3 剣道基本技稽古(竹刀使用) 基本1 (一本打ちの技) ①「礼法」 立礼・3歩前・踏 居・5歩後・立礼	3 剣道基本技稽古・基本1 ①「面」「小手」の復習	3 剣道基本技稽古 ①基本1の復習 「面」「小手」「胴」の復習	3 剣道基本技稽古 ①基本1, 2, 3の復習	3 発表会(評価) 基本1~4の発表
20		4 基本動作 ①構え(中段) ・竹刀の持ち方 握り方 ・足の構え	②「正面」の打ち方・受け方 ③「小手」の打ち方・受け方 ※元立ちと懸かり手	②「胴」の打ち方・受け方 ※元立ちと懸かり手	基本2 ②連続技 「小手」「面」	基本4 ②引き胴 「引き胴」	
25					基本3 ③払い技 「払い面」	③基本1~4までの復習	
30	3 剣道着・袴の片付け方 ・剣道着 ・袴	②足さばき ・前後・左右 ③素振り ・正面素振り		③「面」「小手」「胴」	④発表 基本1~3	④発表 基本1~4	
35				④発表 基本1			
40							
45	4 本時のまとめ 挨拶	4 本時のまとめ 挨拶	4 本時のまとめ 挨拶	4 本時のまとめ 挨拶	4 本時のまとめ 挨拶	4 本時のまとめ 挨拶	4 本時のまとめ 挨拶
50	片付け・解散	片付け・解散	片付け・解散	片付け・解散	片付け・解散	片付け・解散	片付け・解散

「剣道学習 評価カード」

剣道学習 評価カード1年		
年 組	番・氏名	
○ 5点満点で自分で、つけてみよう。		
5点：特によくできた。		
4点：よくできた。		
3点：できた。		
2点：あまりできなかった。		
1点：全然できなかった。		
評価1	剣道の授業に意欲的に取り組めたか。	点
評価2	体操服忘れがなかったか。	点
評価3	剣道着・袴が正しく着装できるか。	点
評価4	正しく正座して、座礼ができるか。	点
評価6	竹刀の振り上げ・振りおろしが正しくできるか。	点
評価7	基本技稽古の最初の礼法が正しくできたか。 (立礼、提げ刀、帯刀、3歩進んで踏居、立って中段、構えを解く、5歩下がって中段)	点
評価8	基本技稽古の最後の礼法が正しくできたか。 (中段、踏居、納め刀、立って帯刀のまま5歩下がる、帯刀から提げ刀、立礼)	点
評価9	基本1 面、小手、胴が正しく打てたか、また打たせることができたか。	点
評価10	基本2 小手から面を連続して正しく打てたか、また打たせることができたか。	点
評価11	基本3 払い面が正しく打てたか、また打たせることができたか。	点
評価12	基本4 引き胴が正しく打てたか、また打たせることができたか。	点
評価14	最後の発表会で相手と協力して、技5本が正しくできたか。	点
合 計		点
剣道学習を終えての感想 努力した点や印象に残った事など具体的に書こう。		

エ 剣道学習の評価

剣道学習の単元計画に合わせ、評価カードを作り、具体的な観点別評価の方法を考えることで指導と評価が一体化するように工夫した。また、生徒の取り組みの様子から、評価の資料とするために助言シートを作成した。

② 外部指導者の活用

本校の外部指導者として、町内の剣道指導者による剣道指導を平成20年度には、計70時間、21年度に、計84時間(男女全時間)実施した。22年度は、体育担当教員の指導力が向上したことや外部指導者の負担を軽減する意味から計15時間の指導を実施した。そして、授業は体育担当教員が進めて、必要に応じて外部指導者に示範や個に応じた

技術指導を実施するとともに、剣道の歴史、礼の大切さを伝える講話などを依頼することとした。



外部指導者による講話

### (3) 授業研究の実践

平成21年9月に、地区中学校保健体育研修会において、剣道の研究授業を2年女子で行なった、地区の中学校の保健体育教員が授業を参観し、指導者として地元の大学教授を招き、本校の取り組みに対するご指導講評を受けた。

#### 「剣道 学習指導案」

第2学年1・2組 女子 保健体育科学習指導案		
4 学習指導計画・・・全7時間		
(1) 道着・袴の着脱、防具の着脱	・・・	1時間
(2) 礼法の確認、基本動作(構え、足さばき、素振り)	・・・	1時間
剣道基本技稽古法	基本1 一本打ちの技「正面」「小手」「胴」「突き」	
	基本2 二・三段の技「小手一面」	
(3) "	基本4 引き技 「引き胴(右胴)」	・・・1時間(本時)
(4) "	基本5 抜き技 「面抜き胴(右胴)」	・・・1時間
(5) "	基本8 返し技 「面返し胴(右胴)」	・・・1時間
(6) 2人組で発表練習	・・・	1時間
(7) 発表会	・・・	1時間
5 本時の指導目標		
(1) 目標	正しい基本動作で、大きな声を出して、正確に強く打つことができる。 基本4 引き技 「引き胴」の練習に意欲的に取り組むことができる。	
(2) 学習指導過程		
学習内容及び学習活動	教師の支援活動や留意点	
	T1	T2
1 集合・挨拶をする。	○正しい礼法で行うように指導する。	○集合・整列させ、出席確認を行い、正しい礼法で座れさせる。
2 道着・袴の着脱、剣道具を着ける。(胴、垂れのみ)	○ひもの結び方、締め具合等を巡回しながら指導する。	○2人組で協力しながら正しく着用させる。お互いに確認しながら進めさせる。
3 体ほぐし運動をする。 手刀で面・胴・小手	○生徒の様子を観察しながら助言する。	○簡単な体ほぐしをする中で、お互いの目を見て、大きな声を出せる雰囲気を作る。
4 対人で、素振りをする。	○足さばき、竹刀の振り方等技术的なポイントを説明する。	○巡回しながら、助言指導を行う。特に大きな声を出している組を賞賛する。
5 学習課題の確認をする。	基本4 引き技 「引き胴(右胴)」を習得しよう。	
6 基本4「引き技」の練習をする。 元立ち役 掛り手役を決める。	○引き技について示範を伴いながら説明する。 ○つばぜり合いからの引き胴の技のポイントを説明する。 ○全員に正面を向かせ、掛り手の動きを練習させる。 ○巡回しながら、技術指導を行う。	○T1の補助をしながら、補足して説明する。 ○巡回しながら、助言指導を行う。 ○全体の練習の様子を見ながら、よく声が出ている、動きが大きい組を賞賛する。
7 基本4「引き技」の発表をする。	○よくできている組を賞賛する。	○グループごとに発表させ、お互いの技を見ることで、意欲を持たせたい。
8 本時のまとめをする。	○練習の様子から見られる課題について話をし、まとめとする。	○本時の学習でよかった所をしっかりとほめ、次時への意欲付けとしたい。

### ① 授業者(体育担当教員、バスケットボール専門)からの授業説明

- ・ 本時は7時間中の3時間目であった。生徒は、昨年剣道を学習しているので、剣道具の着脱は容易であった。
- ・ 剣道着と袴を生徒は好んで着用しており、着用することで、より興味・関心をもって学習に取り組めた。
- ・ 「木刀による剣道基本技稽古法」は、形稽古として、面と小手を着けずに学習させたが、課題がはっきりしているため取り組みやすかった。特に、「元立ち」と「掛かり手」の役割がしっかりと決められている点が指導しやすかった。
- ・ 女子剣道部員の立ち振る舞いが、とてもいいモデルになった。
- ・ 袴姿で正座することや、剣道具を紐で結ぶことなど、普段の生活ではしないことを経験できるよい機会となった。



「剣道部員による模範」

### ② 参観した教員の感想

- ・ 剣道着・袴の着用は、剣道の特性に触れさせるために有効である。
- ・ 剣道着・袴及び剣道具を正しく着脱できるよう適切な支援ができていた。
- ・ 正しい動作で、大きな声を出してしっかりと打てるように支援ができていた。
- ・ 技の指導は、段階的に説明・指導した方が定着する。



「竹刀を用いた基本技稽古法の面打ち」

### ③ 指導・助言(大学教授)

- ・ 宇多津町は、古くから剣道が盛んな地域であり、地域連携が実施しやすい環境にある。
- ・ 凜とした雰囲気での学習が進められていた。
- ・ 学習資料も豊富で、生徒がよく分かりやすいよう提示できていた。
- ・ 外部指導者の熱心さが生徒によく伝わっていた。

- ・ 難しい剣道用語で説明するより、師範で見た方が残像が残り、効果がある。
- ・ 剣道は対人運動なので、常に相手の動きを意識することが大切である。「抜き技」を取り入れることも有効である。
- ・ 師範と言葉での伝え方を研究していくことが大切になってくる。
- ・ 導入段階での剣道の特性を考えた「体ほぐし」の運動が必要である。

#### ④ 生徒の感想

##### ア 初めての剣道学習を振り返って

###### 〈礼法について〉

- ・ 礼儀作法など、普段では絶対に味わえない貴重な体験ができてよかった。
- ・ 剣道は礼に始まり礼に終わることの意味がよくわかった。
- ・ 剣道を通して、礼儀の大切さがわかった。生活の中に活かしていきたい。

###### 〈着装について〉

- ・ 剣道着・袴及び剣道具の着装は、すべて紐で結ぶので、しっかりと結ばなければならないことがわかった。

###### 〈稽古について〉

- ・ 面や小手などの名前は知っていたけど、どうやって打つか知らなかったのでワクワクした。
- ・ 足さばきができるようになったとき、うれしかった。

###### 〈楽しかったところ〉

- ・ 剣道は難しさの中に、楽しさがあることが分かった。
- ・ 対人で練習するのがおもしろい。
- ・ 胴を打つとき「パーン」という音がするので楽しかった。

###### 〈難しかったところ〉

- ・ 剣道具など一人で着けるのは難しかった。
- ・ 正面素振りのとき、面の高さで止めるのが難しかった。



「座礼」

##### イ 外部指導者へのメッセージ（生徒から）

- ・ 普段の生活では聞けないような貴重なお話を聞かせていただきありがとうございました。
- ・ 剣道はあまり知らなかったけれど、今回の学習でぐっと身近に感じるようになりました。
- ・ 礼の大切さを知ることができたり、剣道の楽しさが味わえたので良かったです。



「竹刀の振り上げ・振り下ろし」



「剣道具の着装」

### 3 研究の成果と課題

#### (1) 成果

- ① 3年間の地域連携武道実践事業を通して、最もよかったと思われる点は、本校の全生徒に、剣道という武道を通して、日本古来の伝統文化に対する理解が得られたことである。

また、体育祭での剣道演武の披露などにより、日本の伝統文化としての剣道の魅力を地域にも発信することができた。

- ② 地元大学教授や地域剣道指導者からの指導や助言により、保健体育科の年間指計画の中に、武道領域の学習を位置付けることができ、毎年、継続的に指導ができるようになった。

- ③ 剣道具及び剣道着・袴や竹刀の剣道用具を整備することにより意識を高め、充実した剣道の学習が可能になった。

- ④ 外部指導者と連携しながら授業を進めることで指導技術を学ぶことができ、体育教員自身の研修にもなり、指導力の向上につながった。

地元の剣道の指導者ということで、生徒は親近感と尊敬の気持ちをもって授業を受けることができた。

- ⑤ 研究実践については、地区の中学校教育研究会保健体育部研修会等において研究授業および研究発表、また指導案資料などを通じて、近隣地域の中学校に研究内容を発信した。そうすることで、剣道学習のモデルを提示することができた。

## (2) 課題

- ① 剣道の学習は、剣道用具の準備に多くの時間を必要とする。50分授業では、実動時間が大幅に少なくなる。今後は、着脱の工夫や、2時間続きの授業を実施するなど、効果的な剣道学習を展開したい。
- ② 外部指導者との連携の在り方で、学習内容や指導法の手順などについて、事前の打ち合わせを十分にすることがある。
- ③ 形の学習だけでなく意欲化を図るためには、試合形式の内容を取り入れた単元構成も工夫する必要がある。

## 4 研究成果の普及

- (1) 3年間の研究実践については、綾歌・坂出中学校教育研究会保健体育部研修会において研究発表および指導案資料を通じ、近隣地域の中学校に発信することができた。
- (2) 日本武道館発行の「月刊武道5月号」に剣道実践の寄稿で全国に発信できたので、各校の実態に応じて参考にしてもらえれば幸いである。
- (3) 近隣地域の中学校では、武道領域で柔道・剣道・相撲の中から履修させている種目を調べてみると、柔道が圧倒的に多い。その理由は、剣道は剣道具などの学校備品が高価なため揃えにくいことが大きな理由であった。また、その他の理由として学習内容が多く複雑であるなどの理由があった。

本校の実践を見て、体育教員から、「私にもできそうだ」「ぜひやってみたい」などの感想が述べられた。

## 5 今後の展望

- (1) これまで3年間にわたり、1・2年生男女に、剣道の授業を実践してきた。剣道学習にかける

時数としては、7時間では学習内容を定着させるには時間が足りず、10時間程度は必要である。

- (2) 剣道着・袴・剣道具の着脱には、特に多くの時間を要した。長年、部活動の指導をしてきたので、剣道具を一人でつけるのは当たり前だと思っていたが、授業では時間が限られているということもあり、生徒一人では上手くつけられないことが分かった。そこで、ペアになって他の者の剣道具の紐を結ぶことから始め、段階的に自分で結べるように指導し、さらに、協力して学ぶことの大切さを気付かせることにした。

このように短い時間でも工夫によっては、教育効果のあがる授業を展開することが分かった。さらにより良い指導方法を考えていきたい。

- (3) 学習内容については、男女ともに同じ内容で学習させたが、男女の特性を踏まえつつ、再度学習内容の見直しが必要である。例えば、男子生徒の中には、面をつけて打ち合ってみたいという生徒も多く、形稽古で身につけた正しい打ち方で、面と小手を着けての互角稽古をさせる内容を検討する必要がある。

女子は、剣道の立ち姿、道着・袴姿の美しさを強調すると、興味・関心をもちやすいことがわかった。授業では、面・小手をつけてお互いに打ち合うよりも、形稽古を中心に進めていくことが適切であると思われる。